3-3 八木夏凛

もくじ

1、はじめに ---------- P.1
2、がいろじゅのきそ知識 ---------- P.3
(1)木のしくみ (2)がいろじゅの高さ・形
(3)並木道の歴史(4)がいろじゅの役わり
(5)がいろじゅの問題

3、主ながいろじゅ ---------- P.11
4、がいろじゅマップ
がいろじゅの特徴まとめ ---------- P.25
5、主な並木道 ---------- P.28
6、専門家にインタビュー
(1)豊島区の専門家にきく ---------- P.32
(2)ケヤキ並木の専門家にきく ---------- P.36
(3)ケヤキ並木に住んでいる方にきく ---- P.42

7、調査しながら新しく学んだこと ---- P.47
8、おわりに～ゆめの並木道 ---------- P.48
参考文献

No. 1

Date . .

1. はじめに

昨年の自由研究で雑司が谷の草花を調べた時、がいろじゅの根もとにたくさんの草が生えていることに気がつきました。がいろじゅがある場所には自然に緑が集まってきて、あたりの景色も空気も心地よくなる・・・そんながいろじゅのふしぎな力について調べてみたくなりました。

また、この夏はびっくりするほど暑くて、夏休み中も毎日通っていた小学校のクラブの朝練が、楽しかったのだけど行き帰りがちょっと大変でした。でも、通学路にある鬼子母神のけやき並木を通る時だけは涼しくてほっとしました。がいろじゅの力ってすごいなあ、もっとたくさんふやしたら、だれもが涼しくすごせていいのではと思いました。

← 大門けやき並木保存会の方がせっちした温度計。朝7:30で並木の外と中で2〜3℃ちがいがあります。いちばん暑いお昼ごろで日がてっていると、10℃くらいかわるそうです。

がいろじゅはもともと、旅人がその木のそばで涼んだり、果実を食べたりして休むために作られたと聞いたことがあります。池袋の駅前など、がいろじゅが少なくてとても暑いので、現代でも同じように道を歩く人たちが元気になれるようながいろじゅをふやせたらいいな、と思って、

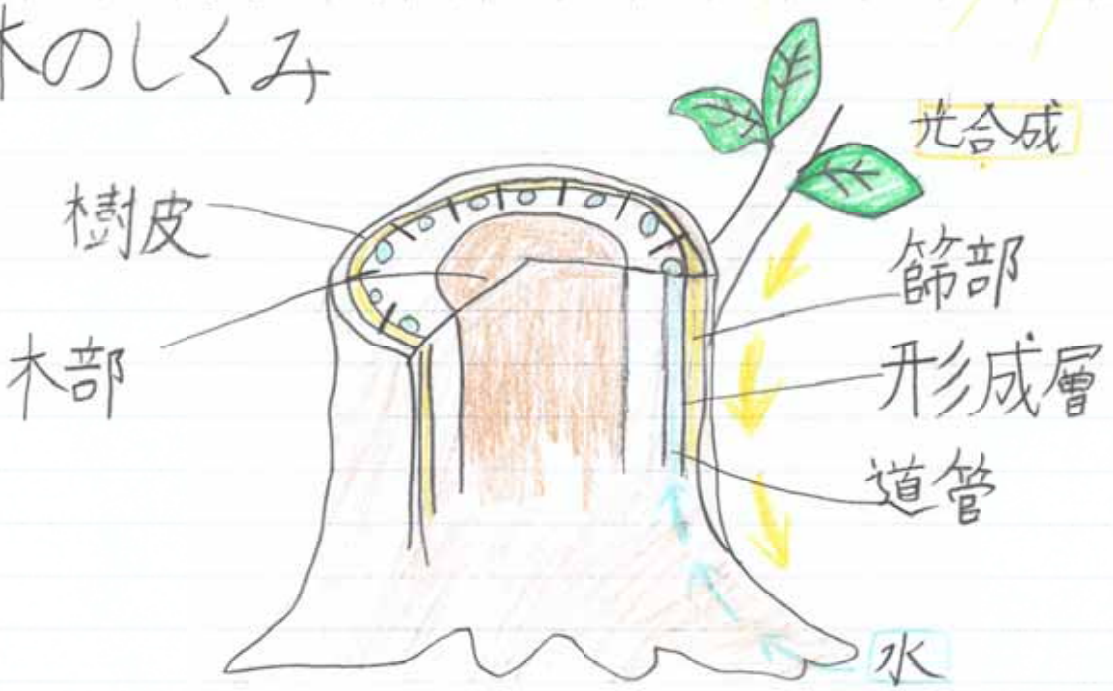
「もっと大きな葉っぱの木にしたら日かげも大きくなるのに」と言ったら、母が、「でも、木の近くの建物にいる人にとっては、おそうじが大変になるのかもしれないよ」と答えました。

「おいしいベリーがなる木があったらいいな」と言ったら、「すてきだけど、鳥さんや虫さんと競争になるかもね」と・・・きっと、今のがいろじゅの状たいにも、いろいろ深いりゆうがあるのでしょう。

まずはがいろじゅの歴史や木のしゅるいについて勉強して、それから町に出てどんな木が植えられているか調べて、さいごに専門家の方にもお話をうかがってから、私のりそうのがいろじゅ並木道について計画してみようと思います。

2、かいろじゅのきそ知識

(1)木のしくみ

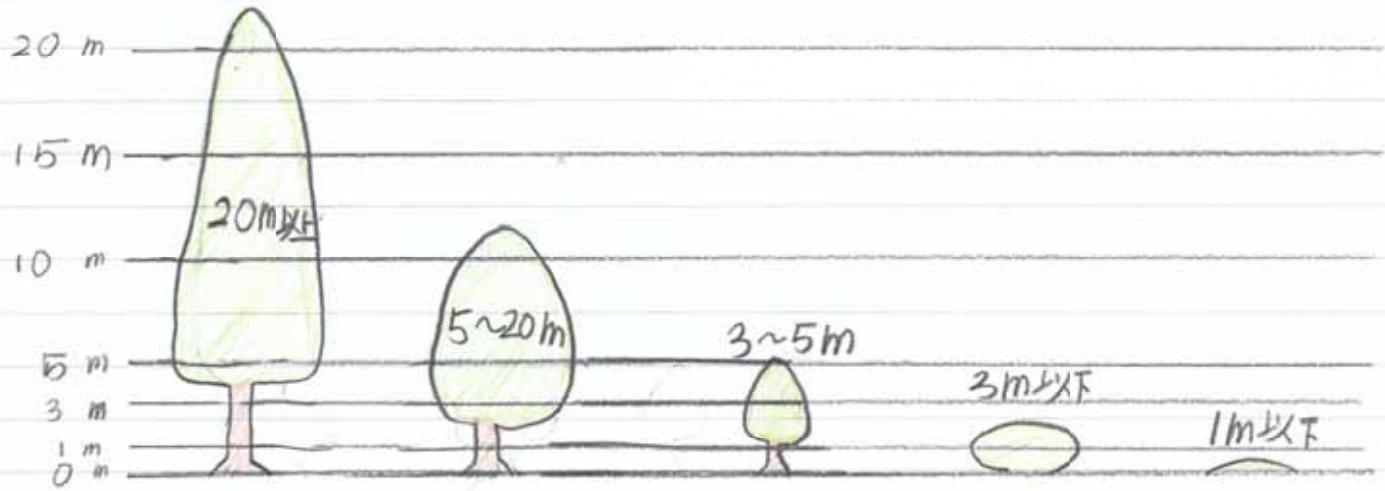


みきの中は、中心から「木部(心材、辺材)」「道管」「形成層」「篩部」「樹皮」の順で並んでいます。内側の多くを占める「木部」は実は死んだ組織で、大きな木を支える役割を果たしています。根から吸い上げた水やミネラルは「道管」を通って木全体をめぐり、葉で光合成によって作られた栄養は「篩部」を通って木全体に供給されます。生きている組織は表皮近くにあるので、皮がはがれたりすると木自体に大きなダメージが。また、栄養は葉での光合成にたよっているので、剪定で枝を落としすぎても木が弱ります。

No. 4

Date . .

(2) がいろじゅの高さ・形



大高木　高木　小高木　低木　小低木

高木の自然樹形

形		木	形		木
円錐形		イチョウ、メタセコイヤ、ヒマラヤスギ、モミなど	球形		クスノキ、ボタンジュエンジュ、マテバシイアキニレ、ハルニレなど
円柱形		ポプラ、イトスギ、カイヅカイブキなど	逆卵円形		コブシ、シンジュ、トネリコ、ニセアカシアなど
卵円形		ユリノキ、プラタナス、モミジバフウ、トウカエデ、ヤマモモ、ハナミズキ、タブノキなど	盃状形		ケヤキ、サクラ、トチノキなど

(3)並木道の歴史

世界で一番最初の並木道といわれているのが紀元前10世紀のヒマラヤ山麓に作られたグランド・トランク道。カルカッタからアフガニスタンの国境のペシャワールまで2,100km続く道の一部に並木が植えられていたそうです。

中国では、紀元前5世紀の周代には郊外に並木道があり、紀元前3世紀に秦の始皇帝が街道を整備して青松を植え、唐代の都にはニレやエンジュの並木があったといいます。

日本では、6世紀末~7世紀初に、滋賀県大津市の建物の水路に沿ってモモが植えられていた跡が見つかっています。古代、モモには魔除けの力があるとされていました。

そして759年、主に仕事で道を行き来する人の休息のための木陰と、飢えを凌ぐための果実を提供す

るべく、「機内の宿場町のある7つの街道の両側に果樹を植えること」というおふれが出ました。その後、唐の影響を受けて、藤原京や平城京にタチバナやヤナギ、平安京でもヤナギとエンジュが植えられました。1575年、織田信長が「道奉行」を任命して、東海道と東山道にマツとヤナギを植え、地元住民に管理させました。上杉謙信も街道に、マツやカシワ、エノキ、ウルシなどを植えさせたといいます。
1601年、徳川家康が五街道の整備をして、マツやスギを植え、その後江戸幕府によって保護されていたのですが、明治になると各地で伐採されてしまいます。

明治12年(1879)、ウィーン万国博覧会を視察してニセアカシアとエンジュの種子を持ち帰った農学者の津田仙が、がいろじゅについて、「造化の配剤にしたがって、天地の化育をたすくるもの」という言葉を残します。(「自然が万物を育てるという自然の理にかない、その自然の営みを人間が助けるものである、という意味。)これ

が見直され、がいろじゅにふさわしい木を選定して、1906年に出されたのが「東京市行道改良按」。選ばれた木は、「アオギリ、アカメガシワ、イチョウ、エンジュ、サクラ、スズカケノキ、トウカエデ、トチノキ、トネリコ、ミズキ、ヤナギ、ユリノキ」でした。　大正時代に入ると、絵画館前のイチョウ並木と表参道のケヤキ並木が整備されます。大戦後の復興では、避難路と美的景観の両側面からがいろじゅが評価され、大気汚染に強い常緑広葉樹のマテバシイやクスノキ、シラカシ、ウバメガシなどに注目が集まります。　1980年代あたりから、ハナミズキやヤマボウシなど花のある木や、高木と低木を組み合わせてより自然な雰囲気を出す植え方が流行し、現在に至ります。　ヨーロッパでは中世の巡礼街道に、それぞれの土地固有の植物が植えられていました。ローマではイトスギ、ドイツではポプラ、オランダではニレやトネリコ。また、王宮からのびる長い直線道路にがいろじゅを植えることは、街をととのえ、重要な建物をきわだたせる効果がありました。

多くは今でも美しく管理されて残っています。

各時代各場所の人間の暮らしに寄りそうように植えられてきたがいろじゅ。昔も今も、選ばれる木にあまり違いがないことに驚きました。対して、人間の生活や意識は大きく変化しているので、がいろじゅへのえいきょうが気になります…。

(4) がいろじゅの役わり

・町並みに統一感とうるおい、季節感を与え、住んでいる人や訪れる人に安らぎや幸福感をもたらす。
・日差しをさえぎり、さらに葉からの蒸散によって涼しい木陰を作り出す。
・大気汚染物質やCO2を吸着、吸収、分解する。
・車道と歩道を分け、また道に沿って視線を誘導することで、歩行者と車利用者双方の安全をはかる。
・対向車のライトを和らげると共に、緑の心理的効果によって車利用者の緊張やストレスを緩和する。
・騒音を和らげる。
・災害時に延焼や建物の倒壊から町を守る。
・生態系の保護や形成にかかわる。
・人ががいろじゅを通して自然と触れ合うことで、その大切さに気づき、自分たちの生活を客観的に見られるようになる。

(5)がいろじゅの問題

・落葉や落果のそうじに労力、予算がかかる。
(歩道や車道の落ち葉をそのままにしておくと、見た目に美しくないだけでなく、排水口がつまったり人や車がすべったりという危険がある)
・害虫が発生する。
・鳥によるふん害が発生する。
・一部のマナーの悪い人間が、植えこみにゴミを捨てて、汚い空間になっている。
・成長しすぎた枝葉が信号や交通標識を隠してしまったり、電線に接触したりすると危険。
・強風で折れた枝や葉が落ちてくると危険。
・日光がさえぎられすぎると、快適に暮らせない
・きちんと管理されていないと、やぶ化して見通しの悪い場所ができ、治安にえいきょうする。
適切な世話がなされず、弱ったがいろじゅが並んでいる光景は、住民や通行人の気持ちを暗くする。

3、主ながいろじゅ

(1)ケヤキ

グリーン大通り
雑司が谷 大門 けやき並木 など

〈みき〉
若い木は灰色がかっているが、年とってくると皮がまだらにむける。内側は赤い。

〈葉〉
糸田長く、鋸歯がカーブをえがく

宮城県、福島県、埼玉県の木

ニレ科ケヤキ属/落葉広葉樹(国産で最大)

樹高:20~30m/分布:北海道中部以南

花期:4~5月/果期:10~11月/紅葉:10~11月

〈名の由来〉ひときわ背が高く美しい:「けやけき木」から。

〈使われ方〉防風林、建材、楽器の材料など

〈豆ちしき〉年輪にそって道管がならぶ。毎年新しく道管ができた枝から芽ぶく。

〈長所〉葉ずれの音が涼しげで、じっさいに木陰が涼しい。若葉の黄緑~夏のこい緑~秋の茶色(寒い地方では黄色や赤い色づく)と色の変化が楽しい。病虫害が少ない。

〈短所〉樹液、花序、落葉のそうじが大変。

(2) イチョウ

目白通り、明治通り など

東京都、神奈川県、大阪府の木

〈みき〉
こげ茶色で、深くひびわれる。

〈葉〉
老木ほど切れ込みが深い

イチョウ科イチョウ属 / 落葉広葉樹

樹高：10~30m / 分布：北海道南部~九州

花期：4~5月 / 果期：10~11月 / 黄葉：10~11月

〈名の由来〉葉の形から「鴨脚（ヤーチャオ）」と中国で名付けられたものがなまった。

〈使われ方〉まな板、しょうぎ板、食用（銀杏）

〈豆ちしき〉約4億、8000年前の地球にも生えていたことから、「生きた化石」と呼ばれる。

〈長所〉秋の紅葉が美しい。火事になると水を出して延火をくいとめる。剪定に強い。乾そうに強い。

〈短所〉果実（銀杏）がくさい。葉に油分が含まれているので、落ち葉が雨にぬれるとすべる。湿気に弱い。

(3) プラタナス(スズカケノキ) 新目白通り、早稲田通りなど

丸袋のがいろじゅでよくみかけるのはモミジバスズカケノキ

〈みき〉
皮がはがれて迷彩柄になる。

〈葉〉
3~5つに裂ける

スズカケノキ科スズカケノキ属／落葉広葉樹
樹高：20~35m／原産：東ヨーロッパ
花期：4~5月／果期：10~11月／黄葉：11月ごろ

〈名の由来〉山伏が身につける「金令懸」にた実の形から。

〈使われ方〉緑陰樹

〈豆ちしき〉世界四大並木樹のひとつ。(あと3つはニレノキ、シナノキ)

〈長所〉生命力が強く、寒さ・剪定・やせた土地・大気汚染などにも耐える。成長がはやい。大きな日陰ができる。がいろにヨーロッパ風のおしゃれな雰囲気が出る。

〈短所〉落ち葉のそうじ、枝の処理が大変。葉のうらにある細かい毛がくしゃみやかゆみにつながる。

(4) ユリノキ

グリーン大通り など

葉がヤたいめずらしい形なのでみきわめやすい

〈みき〉
黒っぽく、細かくたてに裂けめが入る

〈葉〉
はんてんのような形から「ハンテンボク」という別名も。

モクレン科ユリノキ属／落葉広葉樹
樹高：20～60m／原産：北アメリカ
花期：5～6月／果期：10～12月／黄葉：11月ごろ

〈名の由来〉学名のギリシャ語から大正天皇が命名。
〈使われ方〉建材楽器や家具の材料、食用（はちみつ
〈豆ちしき〉チューリップやレンゲに似た花が咲くので「チューリップツリー」や「レンゲボク」とも呼ばれる。
〈長所〉成長がはやい。まっすぐに伸びて、堂々とした木封形になる。新緑も黄葉も美しい。
〈短所〉大木になるが剪定をきらうため、道幅が狭まい場所には不向き。強風、目あたりの悪さにやや弱い。

No. 15

Date . .

(5)クスノキ

グリーン大通り、日の出通りな

兵庫県、佐賀県、熊本県、鹿児島県の木

〈みき〉
縦にパリパリと裂けるおせんべいのよう

〈葉〉
先のとがった だえん形で ふちが 波うつ

クスノキ科クスノキ属／常緑広葉樹

樹高：20m以上／原産：日本

花期：5～6月／果期：10～11月

〈名の由来〉「薬の木」「奇しき木」などから

〈使われ方〉防虫剤、薬、建材

〈豆ちしき〉湿気に強く くさりにくいので、舟や仏像、鳥居などの材料として使われる。

〈長所〉成長がはやく、寿命も長い。ご神木になることも多い。枝がよくしなるので、大木だが強風に強い。

〈欠点〉冬の落葉はないが春に新芽が出ると古い葉はおちる。アオスジアゲハの幼虫だけには弱い。

No. 16

Date . .

(6) サクラ (ソメイヨシノ)

神田川ぞいなど

日本の国花。
枝は低い位置で分岐し平たい樹形になる

<みき>
横向きの点線のようなひびわれが入る

<葉>
細かい鋸歯と、葉柄にある蜜腺がとくちょう

バラ科サクラ属/落葉広葉樹

樹高:4~20m/原産:日本

花期:3~4月/果期:5~6月/紅葉:11月ごろ

<名の由来>江戸染井村(豊島区駒込)で生まれた種。

<使われ方>和菓子の木型、樺細工、食用(花や葉の塩づけ)

<豆ちしき>日本中のソメイヨシノは同じ一本の木から作られた。同じ温度で開花するので桜前線などの予想がたてられる。

<長所>花や新緑で目を喜ばせてくれる。

<短所>剪定したり枝が折れたりするとそこからくさりやすい。葉もみきも虫害にあいやすい。寿命が短い。

(ソメイヨシノは約60年)

(7) トウカエデ

げき場通りなど

最近、かいろじゅとして植えられることがふえてきた。

〈みき〉
はがれてさくれている。外はすあ色、肉は赤茶色。

〈葉〉
3つに裂ける。ひんぱんに剪定された木の葉ほど深い切れこみになる。

ムクロジ科カエデ属/落葉広葉樹
樹高:10~20m/原産:中国
花期:4~5月/果実期:9~10月/紅葉:10月ごろ
〈名の由来〉唐(中国)からやってきたカエデ(カエルの手のような葉の木なので。
〈使われ方〉盆栽
〈立ちしき〉冬もあまり寒くならず夜も明るいような都市部では、まれに紅葉しないこともある。
〈長所〉あまり成長が早くないので管理しやすい。紅葉の色が黄色~橙色~赤と幅があってきれい。排気ガスに強い。
〈短所〉潮風が苦手。アブラムシがつきやすい。

(8)モミジバフウ

最近、かいろじゅとしてモミジより人気があるという。

〈みき〉
たてに深くわれる。コルクっぽい質感。

ちとせ橋近くなど

〈葉〉
モミジバフウは互生、カエデ科の木の葉は対生

フウ科フウ属／落葉広葉樹

樹高：25～40m／原産：北アメリカ

花期：4～5月／果実期：10～11月／紅葉：10月ごろ

〈名の由来〉モミジのような形の葉のフウ(楓)。もともと中国で楓の字はフウ科の木に使うものだったが、日本ではとりかえられてカエデ科にあてられてしまった。

〈使われ方〉香料(樹液)

〈豆ちしき〉紅葉すると葉からいい香りがする。

〈長所〉生命力が強く、剪定や排気ガスにも強い。紅葉がとてもあざやかな赤色になって秋の青空にはえる。

〈欠点所〉大きくなるのでせまい場所には向かない。

(9)ボダイジュ

明治通りなど

明治通りにあるのは「ナツボダイジュ」。

<幹>
たてに細かい切れ目が入る。

<葉>
ハート形で、明るい黄緑色。

シナノキ科シナノキ属/落葉広葉樹
樹高:10～20m/原産:中国
花期:6月/果実期:8～10月/紅葉:10月ごろ
<名の由来>お釈迦様がその木の下で悟りをひらいたという
クワ科のインドボダイジュの代用になったことから。
<使われ方>ロープや(樹皮)数珠(実)、薬(花)
<豆知識>同じようなハート形の葉のシナノキ科の樹林は、ナツボダイジュ、フユボダイジュ、オオバボダイジュなどがある。
<長所>葉がかわいらしく、かろやかな印象。どんな土でも成長する。(本当はれいようと湿り気のある土が好き)
<短所>暑さにやや弱い!

No. 20

Date . .

(10) シマトネリコ

サンシャイン60通りなど

がいろじゅとしても庭木としても最近大人気。

〈みき〉ところどころ皮がはがれる。

〈葉〉すべすべしていて少しつやがある。

モクセイ科トネリコ属/半常緑広葉樹

樹高:10~20m/原産:東南アジア

花期:5~6月/果実期:10~11月

〈名の由来〉樹皮を煮て練ったものを写経などに使った「ネリ濃」からという説も、樹皮につく虫のカイガラ物質の滑りをよくするのに使った「ヤスリ粉」からという説もある。

〈使われ方〉がいろじゅ、庭木

〈長所〉成長が早い。病害虫に強い。葉音が涼やか。

〈短所〉寒さと日照不足に弱い。木のふんいきは涼しげだが葉自体は小さいので、あまり日陰ができない。半常緑なので、落葉の時期にも新芽の時期にも葉が落ちることがある。

No. 21

Date . .

(11) ヤマモモ

グリーン大通りなど

がいろじゅはたいてい
オスの木。

〈みき〉
白っぽくなめらか。
コブができやすい。

〈葉〉
糸田長く、全縁。枝先にまとまってつく。

ヤマモモ科ヤマモモ属/常緑広葉樹

樹高:4~15m/原産:中国、日本

花期:3~4月/果実期:6~7月

〈名の由来〉山に生えている、桃によく似た実がなる木からきたという言説と、「たくさん実がなる」という意味の「山百々(やまもも)」からという言説がある。

〈使われ方〉漁もうなどの染料(樹皮)、ジャムや果実酒(実)

〈長所〉乾燥、強風、やせた土地に強い。葉がみっしりつくので日陰ができる。

〈短所〉メスの木ががいろじゅになっていると、落ちた果実で道路や通行人が汚れるかのうせいも。ハマキムシやコフ病には弱い。

(12) ハナミズキ

グリーン大通り、山手通りなど

90年代のガーデニングブームのころから人気が出て広まった。

〈みき〉
たてに細かく裂ける。

〈葉〉
葉脈がカーブして長くのびる。

ミズキ科ヤマボウシ属/落葉広葉樹

樹高:5~8m/原産:北アメリカ

花期:4~5月/果実期:9~10月

〈名の由来〉春に枝を切ると水のように樹液が出るミズキの仲間で、花のきれいな種類なので。

〈豆ちしき〉大正時代、東京の市長がワシントンへソメイヨシノをプレゼントしたお返しにおくられた。

〈見きわめ〉ヤマボウシとよく似ているが、ヤマボウシのみきはまだらにはがれ、葉が小さめでふちがソ皮うつ。

〈長所〉赤やピンク白の花(正確には総苞片)が美しい。成長がおそいので剪定コストがおさえられる。

〈短所〉乾燥に弱く、ウドンコ病にかかりやすい。花が上を向いて咲くので、木の成長とともに見えづらくなる。

(13) ハルニレ

サンシャインシティ北側など

アイヌの人々にとっては信仰の対象である大切な木。

〈みき〉
不規則にわれ、内側はオレンジ色。

〈葉〉
葉は左右非対称で、鋸歯が二重になる。

ニレ科ニレ属／落葉広葉樹
樹高：15～25m／原産：日本
花期：4～5月／果実期：5～6月／紅葉：10月ごろ

〈名の由来〉皮の内側がぬるぬるしている「滑れ（ぬれ）」のうち、春に花が咲く種類。

〈豆ちしき〉日本全国に植えられているが寒い地方のものほど大きくなるけい向がある。

〈見きわめ〉アキニレとよく似ているが、ハルニレの葉はたての長さが5～12cm、アキニレの葉は2.5～5cm。

〈長所〉成長が早い。乾燥に強い。

〈短所〉湿気が苦手。

(14) カイヅカイブキ

サンシャイン通りなど

刈らずにおくと
もとあがる火のような
樹形になる

〈みき〉
茶色～灰色で、細かく
さけてはがれる

〈葉〉
細くてうろこ状
になる

ヒノキ科ビャクシン属／常緑針葉樹
樹高：4～10m／原産：日本
花期：4～5月／果実期：5～6月
〈名の由来〉大阪の貝塚市で生まれたイブキの園芸種。
イブキは、古代、土器の底にこの木の枝をしいて料理をしたので、ゆげのでる木＝「息吹き木」から。
〈豆ちしき〉剪定で切りすぎたり弱ってきたりするとトゲトゲのするどい葉を出す。
〈長所〉公害や乾燥に強い。病気や虫害も少ない。剪定でいろいろな樹形にすることができる。
〈短所〉日光が足りないと弱る。梨に発生する赤星病を媒介してしまうため、植える場所に制限がある。

道の両側
道の片側
イチ：イチョウ
カツ：カツラ
クス：クスノキ
ケヤ：ケヤキ
コブ：コブシ
サク：サクラ
サル：サルスベリ
シマ：シマトネリコ
シラ：シラカシ
トウ：トウカエデ
ナン：ナンキンハゼ
ネズ：トウネズミモチ
ハナ：ハナミズキ
ハル：ハルニレ
プラ：プラタナス
ボダ：ボダイジュ
マテ：マテバシイ
モミ：モミジバフウ
モモ：ヤマモモ
ヤマ：ヤマボウシ
ユリ：ユリノキ
カイ：カイヅカイブキ
要町
池袋乱歩通り
劇場通り
東京芸術劇場
椎名町
目白通り
目白
旧近衛邸のケヤキ
新目白通り
神田川
高田馬場
早稲田通り

池袋
サンシャイン通り
春日通り
大塚
大塚駅前
サンシャイン60通り
サンシャインシティ
向原
新大塚
南池袋公園
東池袋四丁目
豊島区役所
南池袋小学校
日の出通り
都電雑司ケ谷
雑司が谷霊園
鬼子母神堂
大門ケヤキ並木
明治通り
鬼子母神前
雑司が谷
護国寺
目白通り
不忍通り
学習院下
目白台運動公園
神田川
戸塚警察署
新目白通り
早稲田
椿山荘
早稲田通り

この自由研究内での番号

〈がいろじゅの特徴まとめ〉

	50音順	常緑/落葉	成長	耐乾性	耐風性	耐陰性	病虫害	花色	実	紅葉色
(2)	イチョウ		速	○	○	×	少			
	エンジュ		速	△	△	△	中			
(14)	カイヅカイブキ		中	○	○	○	少			
	カツラ		速	△	△	△	少			
(5)	クスノキ		速	△	△	△	少			
(1)	ケヤキ		速	△	○	△	少			
	コブシ		速	×	×	△	少			
(6)	サクラ		速	△	○	×	多			
	サルスベリ		速	○	△	×	多			
(10)	シマトネリコ		速	△	○	×	少			
	シラカシ		速	△	○	○	少			
(17)	トウカエデ		速	△	○	△	少			
	トウネズミモチ		速	○	?	○	少			
	ナンキンハゼ		速	○	○	△	中			
(12)	ハナミズキ		中	△	×	○	少			
(13)	ハルニレ		速	○	○	△	少			
(3)	プラタナス		速	○	×	×	中			
(9)	ボダイジュ		中	○	○	△	中			
	マテバシイ		中	○	○	△	少			
(8)	モミジバフウ		速	○	?	△	少			
	ヤマボウシ		速	○	○	△	少			
(11)	ヤマモモ		中	○	○	△	中			
(4)	ユリノキ		速	△	×	×	少			

5、主な並木道

(1)目白通り

ゆるやかなカーブなので、黄葉の時期は葉が重なりあって見事。何かの理由で木がなくなった場所にはまたイチョウの若い木を植えているが、目白駅近くで、ヤマボウシやカツラになる場所も。目白駅以西、植込みのツツジがなくなるが、近所にお住まいの方が植えたであろうものがバラエティ豊か。(ヤブラン、ハラン、ヤドリフカノキ、カエデ、デュランタなど)

(2)明治通り

南の大久保のほうではプラタナス並木、途中でユリノキになり、神田川に交差するあたりからイチョウ並木になる。昔ユリノキだったところが一部背の低い木に植え替わっている。(余談)目白通りと交差するちとせ橋の上から、イチョウの梢にさわることができる。

人も車も多いので、木がかがんばっている感じが伝わってくる。

(3)グリーン大通り

名前の通り、緑と木陰でいっぱい。大きな樹木が多く、人は多いけれど、ほっとする並木道。車道側にユリノキ歩道なかほどにケヤキが植わり、緑のドームになった下を歩くことができる。他にも大きなクスノキやエンジュ、マテバシイやヤマモモなど。バス停のそばにはハダズキ。

(4)日の出通り

片側は大きくてりっぱなクスノキ(高速より大きい!!)が並び反対側にはプラタナス。

(5)鬼子母神大門ケヤキ並木

一足踏み入れると時間の流れも体感温度も変わる、地元の人に450年愛されて守られている並木。

(6)学習院 椿の坂
片側に学習院の緑、反対側にナンキンハゼとケヤキ。紅葉も美しい。

(7)サンシャイン60通り
たくさんの人でにぎわう歩行者天国に、シマトネリコが。「えあの通り、木なんてあったの?!」と言われることもあり、ちょっとかわいそう。

(8)サンシャイン通り
カイヅカイブキがたくさん。日陰はないが、密度の高い濃い緑色には。とする。遊歩道にクスノキなど大きな木が。

(9)山手通り
平成27年3月に整備が終わった渋谷～要町の区間は、広くなった歩道に、カツラやコブシ、ハナズキなどあまり背の高くない木が植わっているが、植込みも幅広く、中央の緑地帯も豊かなので、気持ちがいい。

(10)劇場通り
風情のあるトウカエデの並木。

(11)池袋七歩通り
レトロなオレンジ色の街灯と
ハナミズキが続く並木。

(12)新目白通り
椿山荘の下あたりから西へプラタナス並木が続く。時々空白地帯もあって心配になるが、なんとかつながって、山手通りにまじわる。

(13)旧近衛邸のケヤキ
並木ではないけれど近隣に住む人が、木を尊重して、人間の暮らしの方を変化させた例として。旧近衛邸にあったケヤキで、樹齢は100年を越えているそう。木を動かすのではなく、車道を曲げている。

6、専門家にインタビュー

(1)豊島区の専門家にきく

豊島区にはたくさんの魅力的な並木道があることがわかりましたが、まだまだ謎もあります。そこで、豊島区都市整備部公園緑地課のかいろじゅご担当の方に、ご質問させていただきました。

Q:背の高いかいろじゅが小さな地面に倒れずに植わっているのはどうしてですか?

A:一般的に地上部に見えている枝と同じくらいの大きさの根が地下に張っているといわれています。

Q:水やりなどのお世話はしなくても大丈夫なのでしょうか?

A:通常、かいろじゅの水やりは不要です。雨水、地下水にて必要な水分を補給することができます。

Q:枯れてしまったらどうするのですか?

A:枯れ木は見つけ次第、伐採しています。

Q:かいろじゅの高さや間隔にきまりはありますか?

A:高さ4m以上の高木の場合、樹高の上限は樹種ごとに異なりますが、地面からの枝の高さは2.5m以上になるよう定められています。標準的な植栽間隔は6~8mです。

(東京都建設局 道路工事設計基準)

Q:どんな計画をして、がいろじゅにする木を選ぶのですか?

A:地元の意向、成長速度、環境圧※1への適応力を考慮しています。

Q:がいろじゅにえらぶ木の、今の流行や、今後多く選ばれそうな木があったら教えてください。

A:枝が横に広がらない品種のがいろじゅが管理上の面から好まれています。サクラ(天の川)、ケヤキ(ムサシノなど

Q:がいろじゅにする木は、どんな所で育てられて、どうやって運ばれてくるのですか?

A:東京都内にも樹木の苗を生産している圃場※2があります。根にある程度の土をつけた状態で運びます。
根に麻布を巻いて保護して運ぶ場合もあります。(根巻き)

Q:がいろじゅの根元に植わっている植物にはどんな種類があって、どうやって選ぶのですか?

A:豊島区ではサツキ、オオムラサキツツジの2種を多く植えています。管理の手間が少なく、生命力の強い品種が適しています。

Q：がいろじゅに関わるお仕事で、大変なところは？

A：倒木を出さないこと、安全を第一に考えているため管理が大変です。（台風や積雪の季節には事前に剪定を行う、枯れ木がないか調査するなど）

Q：豊島区のおすすめのがいろじゅ、並木道を教えてください

A：グリーン大通り（東池袋一丁目）
：ケヤキ、クスノキ、ユリノキなど多数
鬼子母神参道（雑司が谷三丁目）
：ケヤキ（東京都指定天然記念物あり）
神田川川沿い（高田一、二丁目）：サクラ

Q：がいろじゅをなくして、自転車用の道路にしてはという意見もあります（個人的にはさみしく思います）が、どうお考えですか？

A：豊島区は東京23区でも緑被率※3が少ない区であり、これ以上の緑の減少は環境面および景観面からみても好ましくないと考えております。

Q:これから豊島区で、がいろじゅに関する計画があれば教えてください。

A:池袋駅前のグリーン大通りでは、樹木の形が不揃いである状態が長かったため、剪定方法を見直し、形を整える計画が検討されています。

ありがとうございました!

※1:環境から受けるストレスのこと

※2:畑や農園のこと

※3:地面が緑でおおわれている割合のこと

（2）ケヤキ並木の専門家にきく

「1、はじめに」にも書いた、ふしぎな力のある、鬼子母神大門ケヤキ並木。実際に並木の中にお住まいになりながら並木道の保存に尽力されている「鬼子母神大門ケヤキ並木保存会」の田中さんにお話をおうかがいしました。

Q:「鬼子母神大門ケヤキ並木」と、その保存会の活動について教えてください。

A:今から約450年前、本能寺の変の時代にお寺に奉納されてから今まで生き残っているとても貴重な並木です。幅は7m、長さは100mくらいあります。

お城の建材としてほしいという話があっても心ある人たちが反対して守り、第二次世界大戦の空襲でも燃えずに残りました。

昭和15年、地元の有志によって保存会ができ、並木のケヤキは東京都の所有物となり記念物に指定されました。が、昭和20年～49年に上下水道を通したことなどでだいぶいたみ、19本あったケヤキのうち15本を伐採することになってしまいました。

残った4本は今も都の天然記念物で、勝手に枝を切ったりすることはできません。大切に守られています。
その後、さまざまな努力と協力のもと、少しずつ若いケヤキ（こちらは豊島区の所有）を植えなおすことができて現在、昭和15年当時の合計19本までもどすことができました。（木が枯れても、根は20年近く生きている上、他にもいろいろな事情があって前と同じ場所に植えるのがむずかしいこともあり、大変な道のりでした）
保存会は豊島区や東京都とのやりとりの窓口となり、住民の方々と協力して並木の見守りを続けています。
私は七代目の仁兵衛で、並木沿いで生まれて、今も暮らしています。

Q：ケヤキ並木のいいところはどこですか？

A：人の心と体をいやす心地よさはおばらしいです。遠くからでも目に入ってくる緑並木の中のこもれび、耳から入ってくる葉ずれの音や鳥の声、そして体感できる風の涼しさ。（神田川から吹き上がってくる冷風がケヤキの葉をゆらすのだそうです）

朝早く、鶏の鳴き声と鳥のさえずりで目がさめ、しばらくすると住民の皆さんが石だたみの上の落ち葉を竹ぼうきではく音が聞こえてくる。夏はそこに蝉の合唱も加わる。目をつぶっていても時間がわかるんです。ちなみに石だたみやれんがは、落ち葉そうじしやすいんですよ。アスファルトでは竹ぼうきの先がいたんでしまうんです。

Q: ケヤキ並木の大変なところはどこですか？

A: やはりそうじが大変です。春先に樹液や花序、秋には落ち葉と季節によって木からふりそそぐものがあります。都からの補助で竹ぼうきとゴミ袋を購入しています。区の方も清掃をしてくれるのですが、毎日のことなのでとても追いつきません。

朝と夕方だけでなく、落葉のシーズンには一日3回はくこともあるし、道だけでなく、屋根のそうじも必要で、雨どいがつまってしまうこともあります。春先にアブラムシが大量発生すると、家の窓や車がうすみどり色にそまることも。（おくすりをまきます）

Q:並木の途中にある、みきが途中で折れてフタがされている木は元気なのですか？

A:者郎の天然記念物の4本のうちの1本で、台風で枝が折れてしまったものです。(その時に年輪を数えた人によると、樹齢600年以上だそう)
東京者郎の樹木医さんにみてもらったところ、枝先の葉もしっかり大きさがあるので、なんとか元気とのことです。

Q:ケヤキの水やりや肥料やりなど、定期的なお世話はしているのでしょうか？

A:根が地面の深いところまでもぐっていて水を吸える状態なので、基本的には必要ありません。根がいたんだ時に、特別に肥料をやることはあります。
区の木に関しては、粘土質の土で根回りをかため、水が行くような流れをつくっています。

Q:この夏の猛暑でケヤキは大丈夫だったのでしょうか？

A:特にえいきょうはありませんでした。木の元気がなくなるのは、工事で根を傷つけてしまったり、多すぎる交通量で根がいたんだり、人間の者郎が原因のこと

がほとんどです。根がいたむと、すぐにえいきょうが出て、傷のついた側だけ枝が枯れてしまうことも。

Q:観光スポットにもなっているのに、ゴミもほとんど落ちてなくてキレイなのはなぜ?

A:長いこと静かに暮らしの中にあったケヤキ並木ですが、ここ10年・・特に4~5年くらいのあいだに、古いものを見直す流行や、東京メトロ副都心が谷馬尺ができたこと、インターネットの発達などにより、外国人の方を含め観光客がふえました。並木に住んでいる人には生活の場なので、その分そうじが行き届くというのもありますが、ゴミを捨てていくような方はほとんどいません。不特定多数の方が出入りする場所ですが、お互いにマナーを守ろうという気持ちが自然にはたらいているのでしょう。

Q:保存会として、がんばっていることは?

A:長い歴史を持つ並木ですが、まとまった資料らしいものがありませんでした。並木のいいところ(価値)を形にして資料として積み重ねています。(並木の内

外の温度調査ものひとつ）中の人の主張だけでなく外の人の意見や応えんも、とても大切です。目と耳をこらして、守るものをとりこぼさないように気をつけています。そこにあるのがあたりまえだと思っていたものがあっけなく一瞬でなくなってしまうことがあるので。

Q：これから新しく並木道をつくるときに、どんなことが大事だと思いますか？

A：実際にそこに住まう、生活する人の意見をきくことが一番だと思います。

Q：このケヤキ並木は、これからどうなっていったらいいと思いますか？

A：「何も変えず、何も変わらず、ずっと今のままであってもらえたら」と考えています。
450年間、人間はケヤキと「共生」させてもらってきました。自然と人間が対等であるよう、けんきょでなくてはならないと思います。

ありがとうございました！

(5)ケヤキ並木に住んでいる方にきく
鬼子母神大門ケヤキ並木に住んでいる同じ小学校のお友達とお母さんに、子供視点・大人視点それぞれの話をうかがいました。

Q:ケヤキ並木沿いに住んでいてよかったことは?

A:(子)自然をかんじられること。緑や鳥とふれあっているかんじがいい。

A:(親)同上。遠方の友人が遊びにきた時、本当にここ都心なの?と言うくらい、緑があって静かなことにびっくりされます。夏は参道に入ると涼しいです。個人的には緑がきれいな新緑の時期が好きです。

Q:ケヤキ並木沿いに住んでいて、大変なことは?

A:(子)野良猫や地域猫が、木の根元をトイレ替わりにしちゃうこと。夏は匂う!

A:(親)同上。土が少ないから、猫からしたら自然なことなのでしょうね。
花序や落ち葉のそうじは大変ですが、ご近所さんと

「今年は葉っぱ少ないね」とか「大変よね」といいながらする掃きそうじは、季節をかんじられていいものです。無心で竹ぼうきで落ち葉を掃いて、きれいになった参道をみると気持ちもすきりします。すぐまた落ち葉が落ちてきちゃうけど。

掃いても掃いても終わらない。これって修行だよねとご近所さんが笑って言ってました。

Q:おそうじは毎日するのですか？

A:(親)参道に面したお家の方は、落ち葉の季節には毎朝されていると思います。決まりは特になく、できる時に自宅前やお隣さんの前あたりを自由におそうじする、という感じです。子どもと一緒にお隣さんの前を掃いたりしていると、「ありがとう」とお礼を言ってくださったり、時々子供に小さなお菓子をくれたりします。参道ならではのコミュニケーションです。

Q:落ち葉で焼き芋をすることは？

A:(親)焚き火はできないんです。ご近所さんのお話

では、30年くらい前までは鬼子母神の境内で焼き芋をしていたそうです。

Q:鳥はたくさん来ますか?

A:(親)鳥はよく来ていて、朝は鳥のさえずりがします。毎日当たり前のことになってたので心にとめていなかったのですが、インタビューをうけて、「あ、そういえば鳥のさえずりっていいな」と改めて思いました。

また、今年の夏は猛暑すぎてセミが少ないらしいです。(例年だとうるさいくらい聞こえるのですが)

Q:観光客の方も多いのに並木がいつもキレイなのは?

A:(親)ゴミを捨てていくような人はほとんどいません。皆さんケヤキを見て楽しんで、大事にしてくださっています。もしゴミが落ちていたら、住民の方がそっと片付けているかと思います。いつもキレイに保たれているからポイ捨てするような気持ちにならないのかも。住民の方々のゴミ捨てのルールもきっちり守られています。

私がここに引っこしてきて感じたことは、並木に住む方々には「緑の中に人間が住まわせていただいている」

という ケヤキ並木に感謝する気持ちと「大門(鬼子母神の門前)に住まわせていただいている」という誇りがあるということ。だから、落ち葉掃きしたりそうじをしてキレイにすることは当たり前、という感じでしょうか。

Q:もしもお引っこしするようなことがあったら、また並木など近所に木々のあるところに住みたいですか?

A:(子)もっと畑がいっぱいある、田舎で広いところがいい。

A:(親)また並木や緑があるところに住みたいです。

Q:もし並木にケヤキ以外の木も植えられるとしたら?

A:(子)サクラ!!

A:(親)サクラか、落ち葉の少ない常緑樹。

Q:今後、大門ケヤキ並木にどうなっていってほしいですか?

A:(子)かわってほしくない。ずっとケヤキに元気でいてほしい。

A:(親)私も同じ気持ちです。

ありがとうございました!

6、調査しながら新しく学んだこと

・「草が大きくなったものが木なのではなく草より木の方が古い」。海から上陸した植物の祖先がコケ→シダ→針葉樹→広葉樹と進化しながら乾いた土地に進出し、広葉樹から宿根草が生まれた。動かずに何十年も一つの身体で生き続ける木よりも短いスパンで枯れたり芽生えたりできる草の方が、環境の変化に対応しやすく生き残りやすい。

・「常緑樹の方が落葉樹より強くみえるが逆」

落葉樹のみきや枝には落葉後のために栄養を蓄えておく細胞があるが、常緑樹はなましいつも葉があって光合成ができるため、この細胞が少なく、伐採などで急に葉がへると致命的なダメージを受ける。

・剪定を夏前にしてしまうと、一番暑い時期に日陰ができず木を含む生態系をこわしてしまうことも。予算の都合で一回にまとめて剪定すると弱る場合もある。剪定に強いといわれる木も、生きるのに必死なだけで、枝葉以外にしわよせがいく。

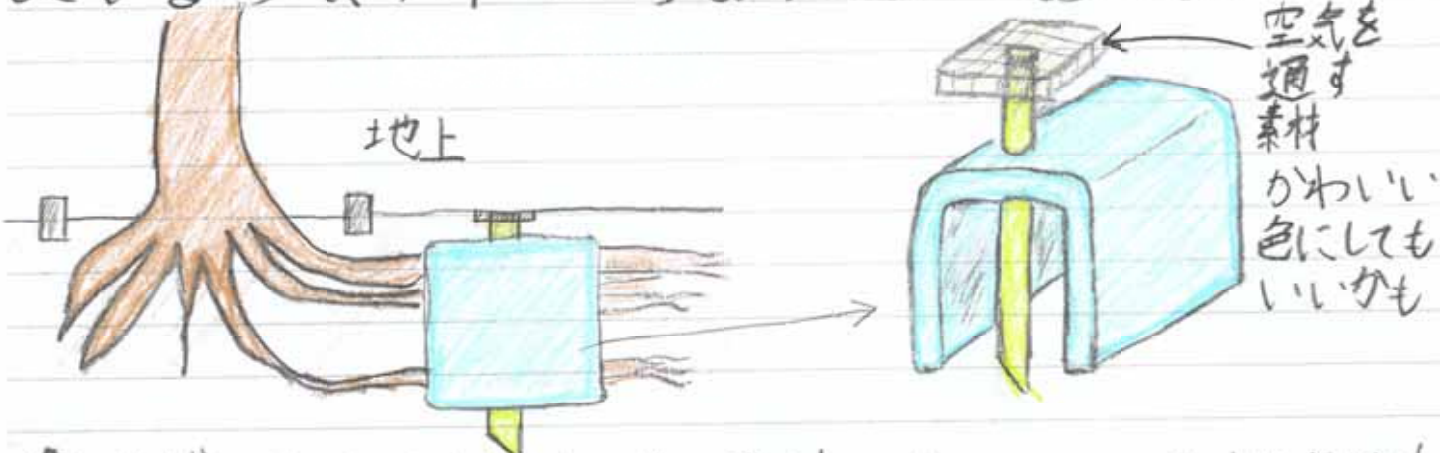
Date . .

7、おわりにへゆめの並木道

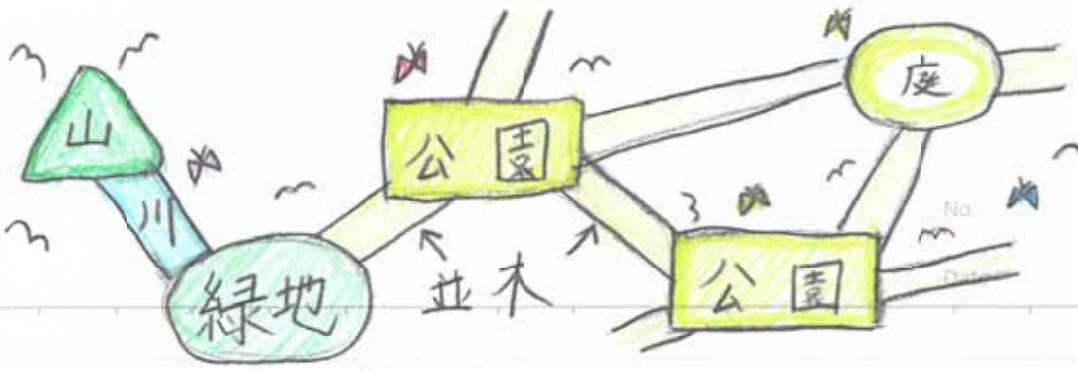
木や草のことが好きなつもりでいたけれど、がいろじゅのことを思い込みで見てしまっているところがあることに気づきました。表面に見えているものより、見えないところに大切なものがあること。一本の木の中に長い時間がつまっていること。動物と植は時間の流れも意識も違うこと。木も人間も幸せになれる並木道ができないか考えてみました。

◆根を大事にする

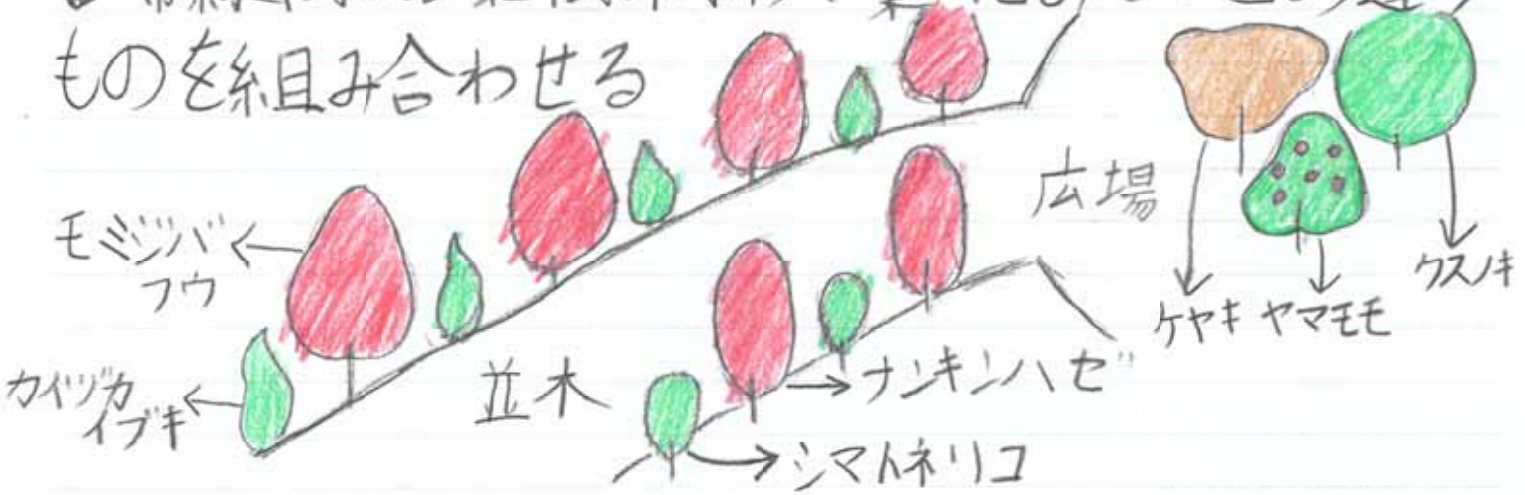
がいろじゅの根は地中に共同管などがあるため伸びる場所が制限されていて、呼吸のための空気も不足しているので、以下のような装置を埋めては。



◆がいろじゅが今何をしてくれているのか説明する。ネームプレートで説明したり、森とのつながりをたどるイベントを催したりする。



◆常緑樹と落葉樹、樹形や葉・花・実の色の違うものを組み合わせる



◆住民も通行人も一緒にお世話やそうじに参加できる機会をつくる。(流行している、出勤前の座禅のように)子供も大人もできる時に立ち寄って、住民の方とお話しながら参加する。

◆ひとつひとつの木に物語があるので、知っている方に語ってもらったり、その木をテーマにしたおはなしのコンクールや写生大会を開催したりする。

◆並木や大きな木のスタンプラリーや、紅葉の季節に何色だったかぬってもらうぬりえラリーを開催する。

がいろじゅに親しんでもらって並木道と一緒に暮らしていく工夫、まだまだできそうです。これからも観察と研究を続けて、ゆめの並木道に近づきたいです。

参考文献

「絵でわかる樹木の育て方」（堀大才/講談社）
「大人の樹木学」（石井誠治/洋泉社）
「樹の手帳」（岩谷美苗/東京書籍）
「五感で調べる木の葉っぱずかん」
（林将之/ほるぷ出版）
「街路樹を楽しむ15の謎」（渡辺一夫/築地書館）
「「街路樹」デザイン新時代」（渡辺達三/学芸出版）
「街路樹の散歩みち」（多田多恵子/山と渓谷社）
「街路樹の呼び名事典」（亀田龍吉/世界文化社）
「樹木ハカセになろう」（石井誠治/岩波書店）
「図解樹木の診断と手当て」（堀大才/農文協）
「都市建築物の緑化手法」（東京都新宿区/彰国社）
「都市緑花」（近藤三雄/講談社）
「葉で見分ける樹木」（林将之/小学館）
「街の木のキモチ」（岩谷美苗/山と渓谷社）
「みぢかな樹木のえほん」
（国土緑化推進機構/ポプラ社）